

授業概要

東南アジア諸国のほとんどが太平洋戦争中、日本による占領、軍政を経験したという共通の歴史をもつ。こうしたアジア諸国の近現代史を、日本との関係を中心に概説する。そして今日のアジアにおいて顕在化している諸問題について、歴史的視点から理解する。また日本社会にとってのアジアの位置付け、日本人のアジア認識の形成について考察する。

授業計画

第 1 回	敗戦から独立へ
第 2 回	講和会議と日米安保条約
第 3 回	中華人民共和国
第 4 回	台湾
第 5 回	朝鮮半島① 植民地統治
第 6 回	朝鮮半島② 朝鮮戦争
第 7 回	朝鮮半島③ 日韓条約
第 8 回	東南アジア
第 9 回	マレー半島
第 10 回	ミャンマー
第 11 回	インドネシア
第 12 回	フィリピン
第 13 回	ヴェトナム
第 14 回	タイ
第 15 回	独立運動
第 16 回	筆記試験

到達目標

アジア諸国の近現代史に関する、基礎的な歴史知識を習得する。アジア近現代史を、日本とのかかわりにおいて位置づけ、世界史全体の流れのなかで理解する。

履修上の注意

近現代史が中心であり、古代中世に関しては必要最小限にとどまる。
高校までの歴史の教科書で、日本とアジアの基本的な知識をまとめておくこと。配布されたプリントを読むこと。

予習・復習

シラバスに従って、該当国と日本との基本的な知識を予習しておくこと。講義後は、配布されたプリントと参考文献などを読んで知識を深めておくこと。

評価方法

授業中の態度、授業後に回収するリアクショペーパーの内容が 50%、学期末の筆記試験 50%として総合的に評価する。

テキスト

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。